

特許出願の番号

Japanese Patent Application No. 2000-308228

特願2000-308228

起案日

平成16年 5月24日

特許庁審査官

渡辺 努

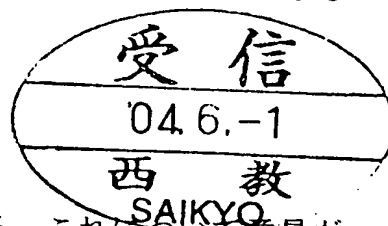
8948 5V00

特許出願人代理人

西教 圭一郎 様

適用条文

第29条第2項



この出願は、次の理由によって拒絶をすべきものである。これについて意見があれば、この通知書の発送の日から60日以内に意見書を提出して下さい。

理 由

この出願の下記の請求項に係る発明は、その出願前日本国内又は外国において頒布された下記の刊行物に記載された発明に基いて、その出願前にその発明の属する技術の分野における通常の知識を有する者が容易に発明をすることができたものであるから、特許法第29条第2項の規定により特許を受けることができない。

記 (引用文献等については引用文献等一覧参照)

- ・請求項 1～7
- ・引用文献等 1
- ・備考

引用文献1（特に、請求項3及びその説明箇所参照。）には、本願の請求項1～3と同様の構成が記載されている。

請求項4に関して、短縮ダイヤル等で、番号と相手先を併せて記憶し、表示する程度のことは、慣用的に成されているものであるし、表示画面にて数字を選択して次のステップに進むような電子機器においては、数字とともに、その意味をも併せて表示する程度のことも良く成されているものである。

請求項5に関して、何らかの設定したモードを解除したり、再び使用したりすることは、電子機器では、通常に成し得ることである。

請求項6に関して、端末装置を使用するに際して、暗証番号等を利用して認証を行い、限られたユーザのみが全ての機能の使用を可能とすることは、広く利用されているものである。

請求項7に関して、引用文献1では、優先的に表示することについては、不明ではあるが、通常の端末装置においては、何らかの条件を選択するとその条件に関連する条件を次の表示とするように構成しているものであり（例えば、銀行の

A T Mでは、最初の画面で選択すると、次に遷移した画面では、選択した内容に関連するものを表示し、さらなる選択を促している。) 、引用文献1の構成を請求項7のような構成とすることに格別の困難性はない。

拒絶の理由が新たに発見された場合には拒絶の理由が通知される。

引 用 文 献 等 一 覧

1. 特開平11-008712号公報

先行技術文献調査結果の記録

- ・ 調査した分野 I P C 第 7 版 H O 4 N 1 / 3 2 - 1 / 3 4
 D B 名
- ・ 先行技術文献

この先行技術文献調査結果の記録は、拒絶理由を構成するものではない。

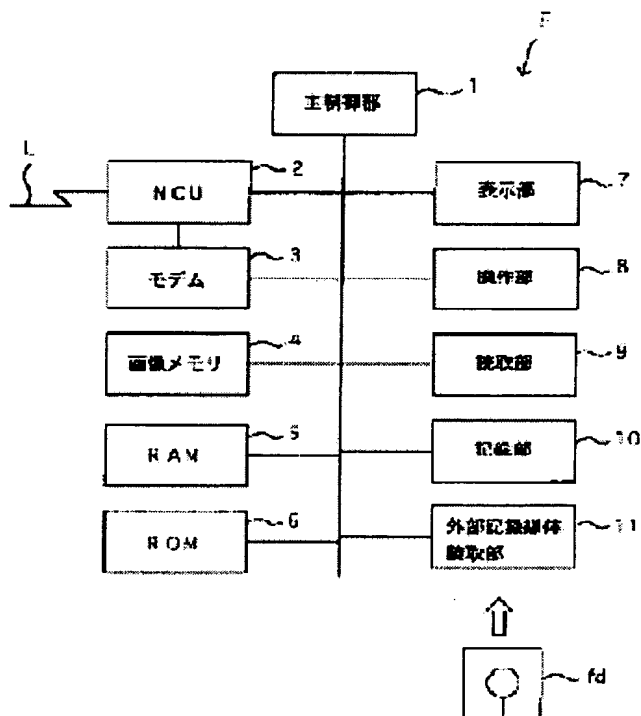
COMMUNICATION TERMINAL EQUIPMENT WITH SUBADDRESS FUNCTION

Patent number: JP11008712
Publication date: 1999-01-12
Inventor: YAMAGUCHI TETSUJI
Applicant: MURATA MACH LTD
Classification:
 - international: H04M11/00; H04N1/00; H04N1/32
 - european:
Application number: JP19970158986 19970616
Priority number(s):

Abstract of JP11008712

PROBLEM TO BE SOLVED: To start communication with a simple operation by correspondingly storing the opposite telephone number and a sub-address for designating an opposite memory box.

SOLUTION: The opposite telephone number and the sub-address for designating the opposite memory box are previously and correspondingly stored in an RAM 5. A main control part 1 transmits the sub-address which is correspondingly stored after the stored opposite telephone number is called and data communication with the opposite party is started. When an operation part 8 selects the group of the opposite telephone number and the sub-address, which are stored in the RAM 5, an NCU 2 can automatically send the sub-address and start communication after it dials the opposite telephone number through a communication line L in the device. Thus, it is not necessary to input the sub-address with the operation of the operation part 8 at every communication for using a sub-address function.



Data supplied from the esp@cenet database - Worldwide

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平11-8712

(43) 公開日 平成11年(1999) 1月12日

(51) Int.Cl.⁶ 識別記号

H 0 4 M 11/00

3 0 3

H 0 4 N 1/00

1/32

// H 0 4 L 9/32

F I

H 0 4 M 11/00

3 0 3

H 0 4 N 1/00

C

1/32

L

Z

H 0 4 L 9/00

6 7 3 A

審査請求 有 請求項の枚数 3 O L (全 9 頁)

(21) 出願番号 特願平9-158986

(22) 出願日 平成9年(1997) 6月16日

(71) 出願人 000006297

村田機械株式会社

京都府京都市南区吉祥院南落合町3番地

(72) 発明者 山口 哲治

京都市伏見区竹田向代町136番地 村田機

械株式会社本社工场内

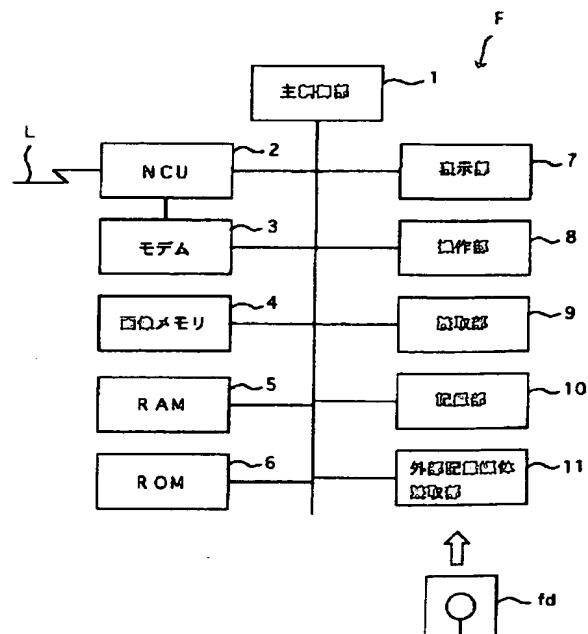
(74) 代理人 弁理士 中井 宏行

(54) 【発明の名称】 サブアドレス機能付通信端末装置

(57) 【要約】

【課題】 予め、相手先ごとに、サブアドレスとパスワードを登録しておき、簡単操作で通信が開始できるようにする。

【解決手段】 相手先電話番号と、メモリボックスを指定するためのサブアドレスとを対応させて記憶した記憶手段5と、この記憶手段5に記憶された相手先電話番号に、対応して記憶されたサブアドレスを送信して、相手先とのデータ通信を開始する制御手段1を備える。



【特許請求の範囲】

【請求項1】相手先電話番号と、メモリボックスを指定するためのサブアドレスとを対応させて記憶した記憶手段と、

この記憶手段に記憶された相手先電話番号を発呼した後、対応して記憶されたサブアドレスを送信して、相手先とのデータ通信を開始する制御手段を備えたサブアドレス機能付通信端末装置。

【請求項2】メモリボックスを指定するためのサブアドレスとパスワードとを対応させて記憶した第1テーブルと、第1テーブルのアドレスと相手先電話番号とを対応させて記憶した第2テーブルと、第2テーブルから相手先電話番号を選択発呼したときに、対応した第1テーブルのサブアドレス及びパスワードを送信して、相手先とのデータ通信を開始する制御手段を備えたサブアドレス機能付通信端末装置。

【請求項3】メモリボックスを指定するためのサブアドレスとパスワードとを対応させて記憶した第1テーブルと、相手先電話番号を記憶した第2テーブルと、第2テーブルから相手先電話番号を選択した後、第1テーブルからサブアドレス及びパスワードを選択して、相手先とのデータ通信を開始する制御手段を備えたサブアドレス機能付通信端末装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、サブアドレスによって指定したメモリボックスに、送信したデータを格納させ、あるいは、指定したメモリボックスから、格納したデータを受信する構成のサブアドレス機能付通信端末装置に関する。

【0002】

【従来の技術】従来から、通信端末装置の1つであるファクシミリ装置には、サブアドレス機能を備えたものがある。このサブアドレス機能とは、サブアドレス信号を送信して、相手装置のメモリボックスを指定し、送信したデータを指定したボックスに格納させ、又は、指定したボックスに格納されているデータを受信するものである。

【0003】図6は、サブアドレス機能を実行したときの通信手順を説明する図である。図6(a)は発呼側が送信したデータを被呼側のメモリボックスに格納する場合(Fコード送信)、図6(b)は発呼側が被呼側のメモリボックスに格納されたデータを受信する場合(Fコードポーリング)である。図6(a)の発呼側からデータを送信する場合、被呼側は、CNG(コーリングトーン)を検出すると(1)、CED(被呼局識別信号)を送出し(2)、続いて、NSF(非標準機能信号)、CSI(発呼端末識別信号)、DIS(デジタル識別信号)を送出する(3)。すると、これらの信号に対して、PWD(パスワード(伝送)信号)、SUB(サブ

アドレス信号)、TSI(送信端末識別信号)、DCS(デジタル命令信号)が送出されて来る(4)。

【0004】ここで、発呼側は、DIS内からサブアドレス能力、パスワード能力ありの設定を検出すると、その応答として、パスワード(PWD)とサブアドレス(SUB)を送出して、被呼側のメモリボックスを指定している。サブアドレスは、各メモリボックスに対して予め1対1に設定され、各メモリボックスをアクセス(データの格納、参照、取出し)するために用いられ、パスワードは、各メモリボックスに対して予め設定され、メモリボックスのアクセスを制限するために用いられている。

【0005】すなわち、サブアドレスによりメモリボックスが指定されるが、同時に送信されてきたパスワードが、予め設定されたパスワードと一致しなければ、指定されたメモリボックスのアクセスを禁止する。なお、パスワードは1つのメモリボックスに対して複数設定することもできるので、このような設定のときは、いずれかのパスワードが送信されて来れば、メモリボックスのアクセスを許可する。また、パスワードを設定しないようにもできるので、このような設定のときは、パスワードがない送信があったり、どのようなパスワードが送信されて来た場合でも、メモリボックスのアクセスを許可する。

【0006】続いて、被呼側は、TCF(トレーニングチェック信号)を受けると(5)、CFR(受信準備確認信号)を返信して(6)、画像データ(PIX)を受信する(7)。この受信したデータは、サブアドレスによって指定され、パスワードによってアクセスが許可されたメモリボックスに格納される。ここでは、画像データを受信後に、MPS(マルチページ信号)を受け(8)、MCF(メッセージ確認信号)を返信して(9)、次ページ(第2ページ)の画像データを受信する場合を示している(10)。

【0007】そして、EOP(手順終了信号)を受け(11)、すべての画像データを受信したことを確認すれば、MCFを返信し(12)、DCN(切断命令信号)を受けて(13)、通信を終了する。その後、被呼側は、メモリボックスから画像データを取り出し、この画像を記録紙に印字出力させたりすることができる。一方、図6(b)の発呼側のポーリング受信の場合、被呼側は、CNGを検出すると(21)、CEDを送出し(22)、続いて、NSF、CSI、DISを送出する(23)。すると、これらの信号に対して、PWD(パスワード(ポーリング)信号)、SEP(選択ポーリング信号)、CIG(発呼端末識別信号)、DTC(デジタル送信命令信号)が送出されて来る(24)。

【0008】ここで、発呼側は、DIS内からサブアドレス能力、パスワード能力ありの設定を検出すると、DTC内にも同様に双方の能力ありの設定を行い、ポーリ

ング受信するためのパスワード(PWD)と選択ボーリング信号(SEP)を送出して、メモリボックスを指定してアクセスしている。続いて、被呼側は、DCS(25)、TCF(26)を送出し、CFRを受けると(27)、画像データ(PIX)を送信する(28)。この送信データは、サブアドレスによって指定され、選択ボーリング信号によってアクセスが許可されたメモリボックスから取り出されたものである。

【0009】ここでは、画像データの送信後に、MPSを送出し(29)、MCFの返信を受けて(30)、次ページ(第2ページ)の画像データを送信している(31)。すべての画像データの送信が終了すれば、EOPを送出し(32)、MCFを受け(33)、DCNを送出して(34)、通信を終了する。

【0010】

【発明が解決しようとする課題】このように、従来のサブアドレス機能付通信端末装置では、相手装置のメモリボックスを指定するために、サブアドレスと、必要に応じてパスワードを送出しているが、これらを送出するためには、毎回、テンキーなどで操作入力を行わなければならない、この操作が面倒であり、また、入力誤りも生じ易いという問題があった。

【0011】本発明は、このような事情に鑑みてなされたものであり、予め、相手先ごとに、サブアドレスとパスワードを登録しておき、簡単操作で通信を開始できることを目的としている。

【0012】

【課題を解決するための手段】上記目的を達成するため、請求項1に記載のサブアドレス機能付通信端末装置は、相手先電話番号と、メモリボックスを指定するためのサブアドレスとを対応させて記憶した記憶手段と、この記憶手段に記憶された相手先電話番号を発呼した後、対応して記憶されたサブアドレスを送信して、相手先とのデータ通信を開始する制御手段を備える。

【0013】請求項2に記載のサブアドレス機能付通信端末装置は、メモリボックスを指定するためのサブアドレスとパスワードとを対応させて記憶した第1テーブルと、第1テーブルのアドレスと相手先電話番号とを対応させて記憶した第2テーブルと、第2テーブルから相手先電話番号を選択発呼したときに、対応した第1テーブルのサブアドレス及びパスワードを送信して、相手先とのデータ通信を開始する制御手段を備える。

【0014】すなわち、制御手段は、第2テーブルから相手先の電話番号を選択すると、対応して記憶された第1テーブルのアドレスから、サブアドレスとメモリボックスを検索し、これらを相手先に送信する。請求項3に記載のサブアドレス機能付通信端末装置は、メモリボックスを指定するためのサブアドレスとパスワードとを対応させて記憶した第1テーブルと、相手先電話番号を記憶した第2テーブルと、第2テーブルから相手先電話番

号を選択した後、第1テーブルからサブアドレス及びパスワードを選択して、相手先とのデータ通信を開始する制御手段を備える。

【0015】すなわち、制御手段は、第2テーブルから相手先電話番号が、第1テーブルからサブアドレス及びパスワードが、各々選択されると、選択された相手先電話番号を発呼し、選択されたサブアドレス及びパスワードを送信して、通信を開始する。

【0016】

【発明の実施の形態】以下に、本発明の実施の形態について、図面とともに説明する。図1は、本発明に係るサブアドレス機能付通信端末装置の構成を示すブロック図である。ここには、一例としてファクシミリ装置Fの構成を示しているが、本発明はこれには限定されず、他の通信端末装置のメモリボックスを指定するためにサブアドレス機能を用いる通信端末装置であればよく、例えば、データ通信機能を備えたパーソナルコンピュータ(パソコン)などであってもよい。

【0017】図において、1はCPUなどで本発明の制御手段を構成する主制御部、2は通信回線Lへのダイヤル信号の送出などの網制御を行うNCU、3は画像データをファクシミリ通信するために信号の変調・復調を行うモデム、4はファクシミリ通信の画像データを蓄積する画像メモリ、5は記憶手段として、相手先電話番号やサブアドレス等の管理テーブルなどを記憶するRAM、6は予め処理プログラムを記憶したROM、7は液晶画面やLEDなどで構成された表示部、8は各種操作キー、スイッチなどで構成された操作部、9はセットされた原稿の画像データを読み取る読取部、10は記録紙に画像データを印字出力する記録部、11はフロッピーディスク等の記録媒体fdから処理プログラム等を読み取るための外部記録媒体読取部である。

【0018】主制御部1には、ファクシミリ通信制御、画像データの符号化/復号化などの処理回路を含んでいる。また、主制御部1は、ROM6に記憶された処理プログラムとは別個に、記録媒体fdに記録された処理プログラムを外部記録媒体読取部11によって読み取り、以降、読み取ったプログラムの命令に従って、以下に記述するような手順を実行する。

【0019】このファクシミリ装置Fは、読取部9で読み取った画像データを符号化して、通信回線Lを通じて送信する一方、通信回線Lを通じて受信した画像データを復号し、記録部10から印字出力する基本動作をなすが、通信回線Lを通じ、サブアドレス(SUB)や選択ボーリング信号(SEP)、パスワード(PWD)を送出して、他の通信端末装置(ファクシミリ装置やパソコンなど)のメモリボックスを指定し、送信したデータを指定したボックスに格納させ、又は、指定したボックスから格納データを受信することができる(図6参照)。

【0020】サブアドレス機能を用いれば、メモリボッ

クスを使用したデータの送受信を可能とする掲示板機能、暗証番号を入力した者のみにデータの取り出しを許可する親展機能、他の通信端末装置に中継送信するためにデータを一時格納する中継機能などを実現することが出来る。本発明の請求項1では、予め、RAM5に、相手先電話番号とサブアドレスとを対応させて記憶しておき、主制御部1が、この記憶された相手先電話番号を発呼した後に、対応して記憶されたサブアドレスを送信して、相手先とのデータ通信を開始することを特徴としている。

【0021】すなわち、操作部8によって、RAM5に記憶されている相手先電話番号とサブアドレスの組を選択すれば、NCU2が通信回線Lを通じて相手先電話番号をダイヤルした後、サブアドレスを自動的に送出して、通信を開始することが出来る。これによって、従来のように、サブアドレス機能を使用する通信の度に、操作部8の操作によって、サブアドレスを入力する必要がなくなるので、入力誤りがなくなり、操作性が向上する。

【0022】また、操作部8のテンキーなどによって相手先電話番号を直接入力したり、ワンタッチダイヤル操作をしたときに、RAM5から相手先電話番号を検索し、発呼する電話番号が記憶されていれば、発呼後の通信手順において、対応して記憶されたサブアドレスを送出する。図2には、RAM5に記憶されているプログラムワンタッチテーブルTの構成の一例を示している。

【0023】ここでは、通信種別dが「Fコード送信」、「Fコードボーリング」になっている相手先のみがサブアドレス機能を実行することができ、従来のプログラムワンタッチテーブルの構成に加えて、相手先電話番号cに対し、サブアドレスfと、その他にパスワードgを記憶している。例えば、プログラムワンタッチ番号a「3」を操作部8で選択操作すれば、相手先名b「(株)abc」にデータ送信を行うべく、相手先番号c「12-345-6789」をダイヤルし、サブアドレスf「01234567890123456789」、パスワードg「01234567890」を送出してメモリボックスを指定し、Fコード送信を行う(図6(a)参照)。また、プログラムワンタッチ番号a「4」を選択操作すれば、相手先名b「〇〇〇〇」からデータ受信を行うべく、相手先番号c「672-1111」をダイヤルし、サブアドレスf「1111222333444」を選択ボーリング信号として送出してメモリボックスを指定し、Fコードボーリングを行う(図6(b)参照)。

【0024】なお、通信種別dが「親展」のときは、オプション番号eは相手先の親展ボックス番号(メモリボックス番号)を示し、通信種別dが「同報」のときは、オプション番号eは同報通信を行う端末が属するグループ番号を示す。また、サブアドレスfとパスワードgの自動送信は、プログラムワンタッチキーを操作したとき

には限定されず、上述したように、テンキーによって直接、相手先番号を入力したときに、テーブルTを検索して、相手先番号cに対応したサブアドレスfとパスワードgを送信してもよい。

【0025】次に、請求項2について説明する。請求項2では、RAM5内に、サブアドレスとパスワードとを対応させて記憶した第1テーブルと、第1テーブルのアドレスと相手先電話番号とを対応させて記憶した第2テーブルを備えている。主制御部1は、第2テーブルから相手先電話番号を選択発呼したときに、対応した第1テーブルのサブアドレス及びパスワードを送信して、相手先とのデータ通信を開始する。すなわち、第2テーブルから相手先の電話番号を選択すると、対応して記憶された第1テーブルのアドレスから、サブアドレスとメモリボックスを検索し、これらを相手先に送信する。

【0026】図3(a)には、上記第2テーブルとして設けられたプログラムワンタッチテーブルT2の構成例を、図3(b)には、上記第1のテーブルとして設けられたFコードテーブルT1の構成例を示している。ここでのプログラムワンタッチテーブルT2は、図2のテーブルTからサブアドレスfとパスワードgを除いた構成になっており、その代わりに、FコードテーブルT1にサブアドレスb2とパスワードb3を記憶している。

【0027】また、プログラムワンタッチテーブルT2の通信種別a4が、「Fコード送信」、「Fコードボーリング」であるプログラムワンタッチ番号a1のオプション番号a5には、FコードテーブルT1のアドレス(レコード番号b1)が記憶されている。図示した構成では、例えば、プログラムワンタッチ番号a1「3」を選択操作すれば、相手先名a2「(株)abc」にデータ送信を行うべく、相手先番号a3「12-345-6789」をダイヤルし、オプション番号a5と同一のレコード番号b1を、FコードテーブルT1から検索して、サブアドレスb2「01234567890123456789」、パスワードb3「01234567890」を送出してメモリボックスを指定し、Fコード送信を行う。

【0028】このようにすれば、プログラムワンタッチテーブルT2の構成は従来のままで、FコードテーブルT1を新たに設けるだけでよい。また、FコードテーブルT1に一括してサブアドレスb2とパスワードb3を登録することができ、FコードテーブルT1とプログラムワンタッチテーブルT2とを関連付けるだけでよいので、簡単にサブアドレス、パスワードの自動送信を実現できる。更に、別々の相手先に対して同じサブアドレス、パスワードを送出するような場合には、プログラムワンタッチテーブルT2にFコードテーブルT1の同じレコード番号b1を登録しておけばよいので、RAM5の使用領域が節約できる。

【0029】なお、相手先番号a3は、プログラムワンタッチテーブルT2に登録するものには限定されず、相

手先番号a 3とFコードテーブルT 1のレコード番号b 1のみを関連付けて登録しておいてもよく、この場合、テンキーによって直接、相手先番号が入力されたときでも、発呼後に、サブアドレスb 2とパスワードb 3を送出することができる。

【0030】次に、請求項3について説明する。請求項3では、RAM5内に、サブアドレスとパスワードとを対応させて記憶した第1テーブルと、相手先電話番号を記憶した第2テーブルを備えている。主制御部1は、第2テーブルから相手先電話番号を選択した後、第1テーブルからサブアドレス及びパスワードを選択すれば、相手先とのデータ通信を開始する。すなわち、第2テーブルから相手先電話番号が、第1テーブルからサブアドレス及びパスワードが、各々選択されると、選択された相手先電話番号を発呼した後、選択されたサブアドレス及びパスワードを送信して、通信を開始する。

【0031】図4には、上記第2テーブルとして設けられたワンタッチテーブルT 3の構成例を示しており、上記第1のテーブルとしては、図3 (b) に示した構成のFコードテーブルT 1が使用できる。このとき、操作者は、操作部8のワンタッチキー「A」～「C」のいずれかを操作して、ワンタッチテーブルT 3から相手先を選択したあと、FコードテーブルT 1から、レコード番号b 1を選択して、サブアドレスb 2とパスワードb 3の組を選択すればよい。これによれば、同じ相手先に対しても、異なるメモリボックスを簡単に指定することができる。

【0032】次に、以上に説明したファクシミリ装置Fの動作をフローチャートで示す。図5 (a) は、図3

(a) に示したプログラムワンタッチテーブルT 2の登録手順を示している。まず、ワンタッチボタン（プログラムワンタッチ番号a 1）を選択してから、順次、相手先番号a 3、相手先名a 2、通信種別a 4を入力し、サブアドレス機能を使用するときには、FコードテーブルT 1のレコード番号b 1を入力する（100～104）。

【0033】図5 (b) は、図3 (b) に示したFコードテーブルT 1の登録手順を示している。まず、登録するレコード番号b 1を選択してから、サブアドレスb 2とパスワードb 3をテンキー入力する（110～112）。図5 (c) には、通信時の動作を示している。プログラムワンタッチキーが入力されたときには、プログラムワンタッチテーブルT 2から、入力されたキーに対応する相手先番号a 3を検索してダイヤルし、表示部7に相手先名a 2を表示する。その後、自動的にFコードテーブルT 1から、サブアドレスb 2とパスワードb 3を検索して送出し、これらを表示部7に表示して、相手装置のメモリボックスを指定した通信を開始する（200～205）。

【0034】一方、プログラムワンタッチキーが入力さ

れず、ワンタッチキーが入力されたときには、ワンタッチテーブルT 3から、入力されたキーに対応する相手先番号a 3を検索してダイヤルし、続いて、FコードテーブルT 1のレコード番号b 1を入力することによって選択したサブアドレスb 2とパスワードb 3を送出して、これらを表示部7に表示し、相手装置のメモリボックスを指定した通信を開始する（206、207、203～205）。

【0035】

10 【発明の効果】以上の説明からも理解できるように、本発明の請求項1に記載のサブアドレス機能付通信端末装置は、相手先電話番号と、相手先のメモリボックスを指定するためのサブアドレスとを対応させて記憶しているので、相手先電話番号に発呼したときにサブアドレスを送信し、相手先とのデータ通信を開始することができる。したがって、従来のように、サブアドレスを送出するために、毎回、操作入力を行う必要がなく、簡易かつ正確にサブアドレス機能を実現することができる。

20 【0036】請求項2では、サブアドレスとパスワードとを対応させて記憶するとともに、これと関連付けて相手先電話番号を記憶しているので、相手先電話番号を選択発呼したときに、関連付けられて記憶されているサブアドレス及びパスワードを送信して、相手先とのデータ通信を開始することができる。これによって、簡単な登録を行うだけで、サブアドレス、パスワードの自動送信が実現できる。

【0037】請求項3では、サブアドレスとパスワードとを対応させて記憶する一方、相手先電話番号を記憶しているので、相手先電話番号を選択した後、通信開始時になってから、サブアドレス及びパスワードを選択して、相手先とのデータ通信を開始することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明に係るサブアドレス機能付通信端末装置の構成の一例を示すブロック図である。

【図2】プログラムワンタッチテーブルの構成の一例を示す図である。

【図3】(a) はプログラムワンタッチテーブルの構成の別の例を、(b) はFコードテーブルの構成の一例を示す図である。

40 【図4】ワンタッチテーブルの構成の一例を示す図である。

【図5】本発明に係るサブアドレス機能付通信端末装置の動作を示すフローチャートである。

【図6】本発明に係るサブアドレス機能付通信端末装置の通信手順を示す図である。

【符号の説明】

F・・・本発明のサブアドレス機能付通信端末装置（ファクシミリ装置）

1・・・主制御部

5・・・RAM

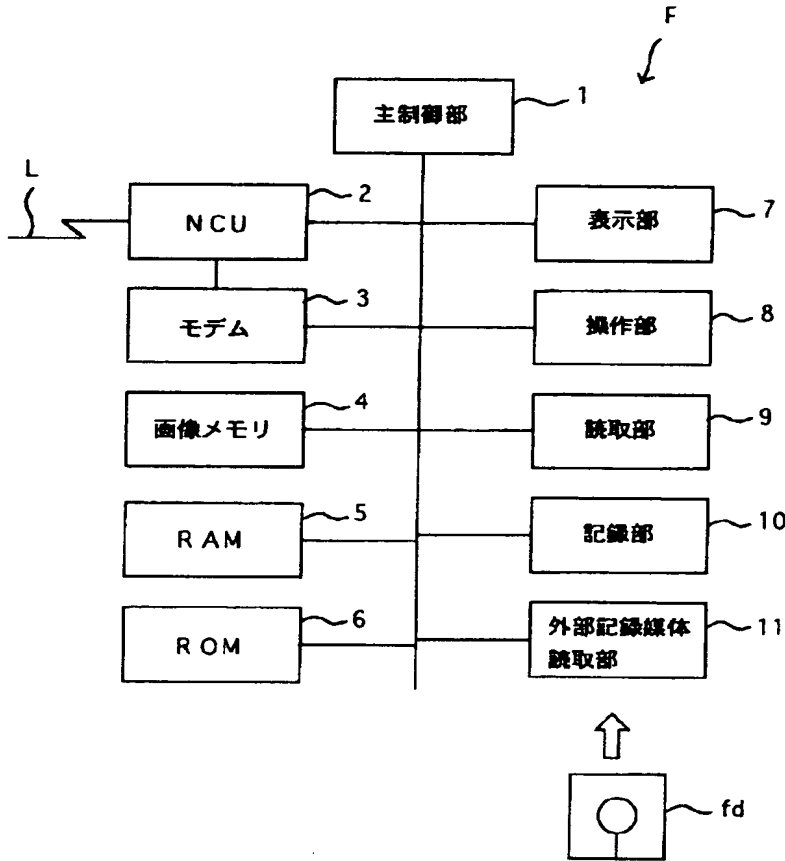
9

10

T, T2・・・プログラムワンタッチテーブル
T1・・・Fコードテーブル
T3・・・ワンタッチテーブル

* c, a3・・・相手先番号
f, b2・・・サブアドレス
* g, b3・・・パスワード

【図1】



【図4】

T3

NQ.	相手先名	相手先番号
A	ヤマダ 知子	075-123-4567
B	田中	0726-98-7654
C	田abc	12-345-6789
⋮	⋮	⋮

【図2】

T
↓

a	b	c	d	e	f	g
NO.	相手先名	相手先番号	通信種別	オプション番号	SUB	PWD
1	1111	075-123-4567	親展	1	—	—
2	2222	0726-98-7654	同報	G1、G2	—	—
3	3333	12-345-6789	F3-D送信	—	01234567890123456789	01234567890
4	4444	672-1111	F3-D受信	—	1111222333444	—
...

【図3】

(a)

T2

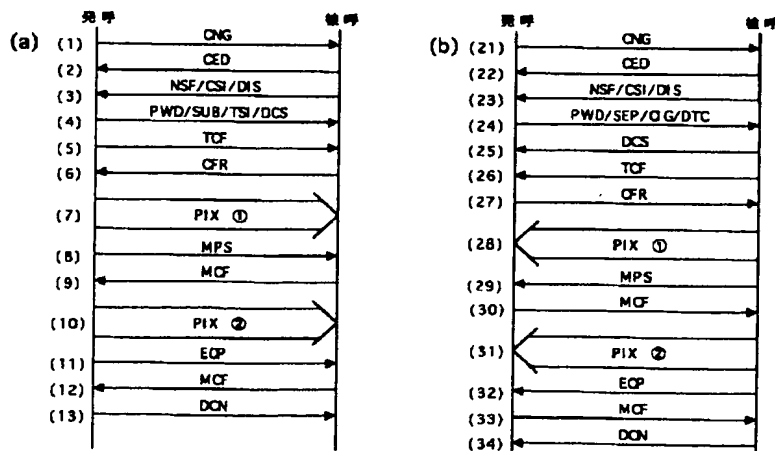
a1	a2	a3	a4	a5
NO.	相手先名	相手先番号	通信種別	オプション番号
1	ヤマダ 知子	075-123-4567	親展	1
2	タカ	0726-98-7654	同報	G1、G2
3	機abc	12-345-6789	フット送信	1
4	〇〇〇〇	672-1111	フットホーリング	2
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮

(b)

T1

b1	b2	b3
NO.	SUB	PWD
1	01234567890123456789	01234567890
2	1111222333444	—
3	98765432109876543210	99998888777
⋮	⋮	⋮

【図6】



【図5】

